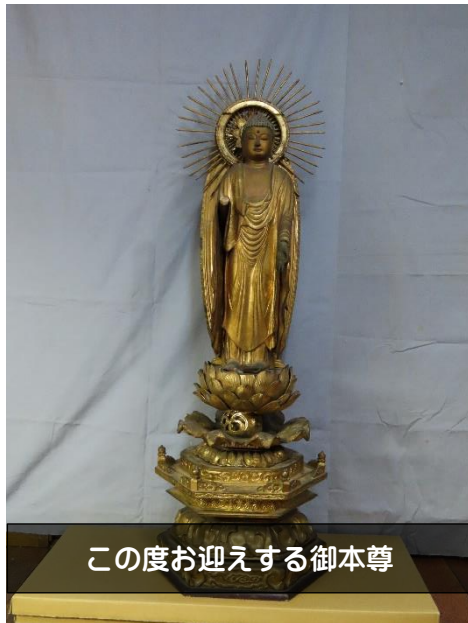


慶念寺々報

# つながり号外

新たに迎える御本尊について



この度お迎える御本尊

前回の寺報などでご案内いたしました通り、慶念寺では宗教法人化へ向けて、新たに御本尊をお迎えすることになり、御本尊の修復協賛事業を行っております。

つきましては、修復を行うにあたり、この御本尊について、様々なことがわかってまいりましたので、その進捗についてご報告申し上げます。

## 御本尊の由緒

修復にあたり、京都の仏師さんの工房で一度御本尊を解体していただきました。すると、御本尊の本体の内側に文章、そして内部

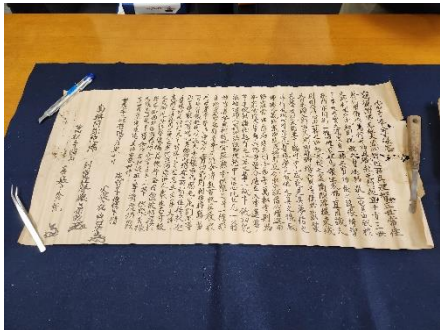
に巻物が収められておりました。本体の内側の文章からは、三月号の寺報でも少し書きました



が、徳川將軍家菩提寺である「成道山大樹寺」より、子院の善楊院住持の賢譽山哲に下付されたことがわかりました。(詳しくは先月の寺報もしくは慶念寺HP)

その後、四月に入り、京都府下京区にある若林佛具製作所本社にて、仏師さん立会いの下、写真右側の巻物を開いたところ、新たにこの御本の来歴が出てまいりました。

巻物に書かれていたのは「當寺本尊縁起」を表題とする文章で、この御本尊がとあるお寺に安置されるまでの経緯が記されておりました。それによると、当初は善楊院の御本尊



であったものを、城宝寺の当時の住持が夢告を受けて隠居寺であった萬松寺の御本尊として迎えたのが、こちらの御本尊であろうと考えられます。その後、どのようなにして三重のお寺に遷って行ったのかは、不明ですが、江戸時代より東海の地で

多くの民を見守ってこられた御本尊であったことがわかります。

## 寄木造り玉眼嵌入の御本尊

この度の御本尊は、仏像の製作方法として



は主流である寄木造りになっており、お顔には玉眼(水晶の眼)が嵌入(かんにゆう)されています。上の写真は御本尊の胴体部分を分解した写真。彩色も塗り重ねられた跡があったように、一度修復をされたようです。しかし、完全修復ではなく、傷んだ部材を取り換えて、彩色を塗り重ねたと思われる。「彩色を落とすところ、お顔の玉眼が確認できた」とのこと、完全修復は作成されから初めて行われると考えられます。



住職自身、寄木造りのお木像が分解されているところを見るのは初めてで、お顔の作りがこのようなになっているのを初めて知りました。台座からは現在特に文章は確認されておりません。今後修復を行うにつれて、何かわかることがあるかもしれせん。

## 御本尊修復協賛事業について

・御本尊修復にあたり、1万円以上のご懇志のお礼として、ご懇志進納者のお名前を御本尊の胎内に文書にてお名前を残させていただきます。

・御本尊をお迎えする法要の際に、ご懇志を頂いた方のお名前全てを、法要の表敬告白(ひょうけいこくはく)の際に尊前にご奉告申し上げます。

・この度の協賛事業は任意のご協賛であり、強制ではありません。懇志の有無において、今後の対応に差別はいたしません。

右の通り、御本尊修復の協賛事業を行っております。すでに、ご協力くださった方もいらっしゃるしやう、大変心強く思っております。

御本尊は江戸時代から巡り巡って慶念寺にご縁を頂いたように、時代を超えて後世に残ります。数百年後、この御本尊が修復される際に、この御本尊や浄土真宗の歴史を知るための重要な史料として発見されるかもしれません。ぜひこの機会に、ご自身もしくは大切な方のお名前を後世に残していただければと存じます。

## 協賛事業の詳細はHPをご覧ください

この度の協賛事業の詳細は慶念寺HPに詳しく載せております。左のQRコードもしくは、「御本尊修復協賛について」の画像をタップして、ご確認ください。



特設ページ QR コード

## ☆ご懇志の納入方法

↳ 直接お持ちいただく場合

事前にご連絡の上、慶念寺にお持ち下さい。(連絡がない場合、留守にしていることがあります) また、その際にどなたのお名前を記載したいかをお伝えください。

↳ 郵便で送る場合

下記の住所に現金書留にてお送りください。また、中にどなたのお名前を記載するかを記入した紙を同封して下さいませ、お願いいたします。領収書をお持ちいただきましたら、郵送料は負担いたします。

↳ 銀行振り込みの場合

川崎信用金庫 中野島支店(021)

口座番号 0795963

名義 慶念寺 小林賢五

にお振込ください。振込手数料は負担いたしませんので、手数料を差し引いた金額をお振込ください。また、振込後どなたのお名前を記載するかをお伝えください。

(電話・メール・Fax等)

## ☆ご懇志の納入期限

御本尊修復期間・胎内文書作成の兼ね合いで、納入期限を

※令和5年6月15日(木)

までとさせていただきます。

## 編集後記

四月の寺報の中で、色々と思っていたのですが、書きたいことが多すぎて、この度は号外という形で御本尊の修復事業について書かせていただきました。

寄木造りの御本尊が文字通り開かれているのを見ることが減多になく、ましてや本物の古文書を手に取ってみることなど初めてのことでしたので、とても興味深い体験をさせていただいております。

また、統廃合で解散したお寺の住職をされていた方が、ひよんなことから慶念寺に御本尊が渡ったことを知って「是非、うちのお寺のご門徒さんに話をして協賛をしたい」とのお申し出も頂きました。有難いことです。

多くの方と、この事業を成し遂げたいと思っております。ご協賛、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 浄土真宗本願寺派 築地本願寺

### 川崎多摩布教所 慶念寺

〒214-0012  
川崎市多摩区中野島 4-24-2-5  
電話：044-819-5482  
FAX：044-819-5538  
Email：mail@kyounenji.com

ホームページ URL  
<https://kyounenji.com/>



慶念寺ホームページ QR コード